

呉工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理Ⅱ	
科目基礎情報						
科目番号	0018		科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科		対象学年	1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	総合物理Ⅰ ー力と運動・熱ー, フォローアップドリル物理基礎「運動の表し方・力・運動方程式」, フォローアップドリル物理基礎「仕事とエネルギー・熱」(数研出版), 2023 セミナー基礎物理+物理(第一学習社)					
担当教員	小林 正和					
到達目標						
全ての学習項目について, 知識を身につけ関係する計算ができるようになる。 全ての学習項目について, 現象・式を理解して説明ができるようになる。 全ての学習項目について, 物理に関する知識・理解を他の場面で使えるようになる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1	全ての学習項目について, 広い知識を身につけ関係する計算ができる		全ての学習項目について, 知識を身につけ関係する計算ができる		一部または全ての学習項目について, 知識を身につけ関係する計算ができない	
評価項目 2	全ての学習項目について, より広く・深く現象・式を理解して, よりよく説明ができるようになる		全ての学習項目について, 現象・式を理解して, 説明ができるようになる		一部または全ての学習項目について, 現象・式を十分に理解しておらず, 十分な説明ができない	
評価項目 3	全ての学習項目について, 物理に関する知識・理解を, 他のより広い場面で使うことができる		全ての学習項目について, 物理に関する知識・理解を, 他の場面で使うことができる		一部または全ての学習項目について, 物理に関する知識・理解を, 他の場面で使うことができない	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HB)						
教育方法等						
概要	物理は「今起こっていることを説明する」のが目的の学問です。この科目では, 物理Ⅰに引き続き, 高専で学ぶ物理分野のうち力学について扱います。力学に関する基本的な概念および法則を理解し, 自然界のさまざまな物理現象と基本的な概念を結びつけ, 自分で考えられるようになることを目的とします。					
授業の進め方・方法	講義および演習を基本とします。適宜, 小テストや課題を課す他, 実験を行います。					
注意点	これから学んでいく物理および専門科目の基礎となる科目です。最初は, これまで学習してきた科目との勉強方法や考え方の違いに戸惑うことでしょう。だからといって分からないところをそのままにしておく, 進級が難しくなるか, 進級できても専門科目の授業についていけなくなります。この違いを乗り越えるには, 授業をただ聞いているだけでは足りないということを, まずは理解しましょう。授業では自分で学習するための基本事項を説明しますが, 物理の学習は授業内容を復習する他, 実際に自分で手を動かして問題を解くことで理解の確認と定着を進めることが極めて重要です。授業を聞いていて分からないところは, 授業中でもどんどん質問してください。自宅学習で分からないところがあった場合には, 教員室に質問に来てください。必要な既学習内容を理解していない場合には, 補習等をおこなう場合があります。自然界のさまざまな物理現象を理解する考え方を学ぶことで, 専門科目を勉強するハードルが大きく下がるだけでなく, 世界の見え方がガラリと変わります。物理の学習を通じて, これらを楽しんでほしいと思います。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 力・いろいろな力	力について説明できる 重力・張力・垂直抗力・弾性力について説明できる フックの法則を用いて, 弾性力の大きさを求めることができる		
		2週	力の合成・分解・力のつりあい	物体に作用する力を図示することができる 力の合成と分解をすることができる 質点にはたらく力のつりあいの問題を解くことができる		
		3週	作用・反作用, 慣性の法則, 運動の法則	作用・反作用。慣性の法則および運動の法則について説明できる		
		4週	運動方程式・重さと質量	運動の法則を運動方程式で表すことができる 重さと質量の違いについて説明できる		
		5週	運動方程式の応用	1 物体および 2 物体の運動方程式を用いた計算ができる		
		6週	摩擦を受ける運動	静止摩擦力和最大摩擦力, 動摩擦力について説明できる 摩擦を受ける運動に関する計算ができる		
		7週	液体や気体から受ける力	圧力, 浮力, 空気の抵抗について説明できる		
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	答案返却・解答説明 仕事	仕事と仕事の原理, 仕事率について説明できる 仕事と仕事率に関する計算ができる		
		10週	仕事	仕事と仕事の原理, 仕事率について説明できる 仕事と仕事率に関する計算ができる		
		11週	運動エネルギー	エネルギーと運動エネルギーについて説明できる 物体の運動エネルギーに関する計算ができる		
		12週	位置エネルギー	重力および弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる		

		13週	力学的エネルギーの保存	力学的エネルギー保存則について理解し、様々な物理量の計算に利用できる
		14週	全体復習	
		15週	学年末試験	
		16週	答案返却・解答説明	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	物理	力学	物体に作用する力を図示することができる。	3	後1
				力の合成と分解をすることができる。	3	後2
				重力、抗力、張力、圧力について説明できる。	3	後1
				フックの法則を用いて、弾性力の大きさを求めることができる。	3	後1
				質点にはたらく力のつりあいの問題を解くことができる。	3	後2
				慣性の法則について説明できる。	3	後3
				作用と反作用の関係について、具体例を挙げて説明できる。	3	後3
				運動方程式を用いた計算ができる。	3	後4,後5
				運動の法則について説明できる。	3	後4
				静止摩擦力がはたらくている場合の力のつりあいについて説明できる。	3	後6
				最大摩擦力に関する計算ができる。	3	後6
				動摩擦力に関する計算ができる。	3	後6
				仕事と仕事率に関する計算ができる。	3	後9,後10
				物体の運動エネルギーに関する計算ができる。	3	後11
				重力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	後12
弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	後12				
		力学的エネルギー保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3	後10,後13		

評価割合

	定期試験	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	70	30	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0